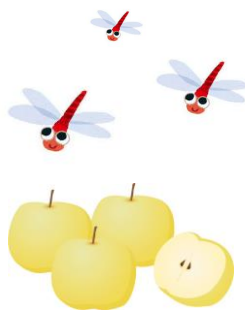


# たるみ歯科通信

2017年 9月号 No.81

こんにちは。歯科衛生士の外村です。  
今年も暑い夏は終わりましたが、秋とはいえ、  
きびしい残暑はまだ続きそうです。  
皆さん、体調をくずさないように過ごしましょうね。



さて今回の通信は、歯を失う原因の一つである、  
「破折（はせつ）」についてお話しします。

## 破折（はせつ）

歯がもろくなってヒビが入り、割れてしまうことを「破折」といいます。  
破折の直接の原因は、氷や飴など硬いものをガリッと噛んだり、食いしばり  
や歯ぎしりでギリギリしたりなどですが、歯を削る治療を重ねるうちに  
薄くなってしまった歯が破折することが多いです。

下の写真は神経をとる処置をした歯の根っこが破折したものです。  
こうなってしまうと、歯ぐきの腫れや噛んだ時の痛みなどの症状がでて、  
この歯は抜歯するしかなくなってしまいます。



歯の根が割れています。



歯の破折を防ぐためには、歯を削らなくてもいいようにムシ歯を作らない  
ことがいちばんです。

そのためにはご家庭で

- ・間食（砂糖）の摂り方を工夫する。
- ・正しい歯磨きとフロス、歯間ブラシを使う。
- ・フッ素の洗口液やジェルを使う。

などのホームケアをしっかり行ない、さらに

「**歯科医院で定期健診を続けること**」

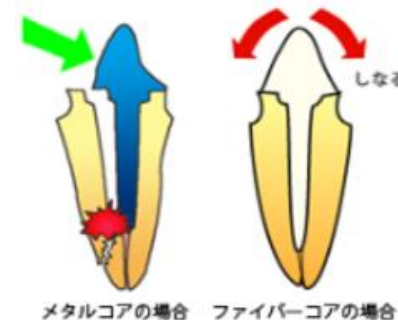
が大切です。

すでに神経の処置をしている歯や大きく削っている歯がある場合には、

- ・上下の歯を軽く離して、食いしばらないようににする。
- ・その歯で無理に硬いものを噛まないようににする。

などを心がけてください。

神経の処置をした歯の破折を予防する  
ために、被せの下の土台（コア）を金属  
ではなく、ファイバーにすることも  
できます。詳しくは通信の2013年  
7月号をご覧ください。



**いつまでも自分の歯でおいしく食事ができるように  
定期健診を続けながらしっかりお口のケアをしていきましょう！**

9月の予定

☆ 矯正診療日は **21日（木）午後** です。

